

8月のアーティスト



高橋 美乃里 ちゃん
北鬼柳にじいろ保育園 6歳



保育園の夕涼み会で、友達と水風船のヨーヨーで遊んだよ。たくさんポンポンして楽しかったな！たこ焼きの的当てと魚釣りもやってみたよ。

みんな

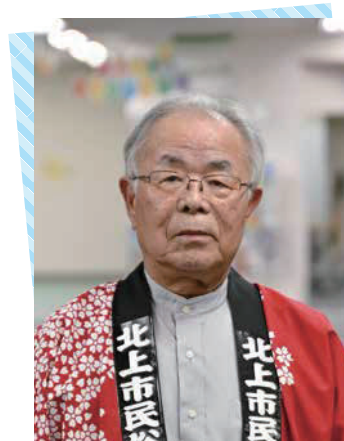
の広場

この人に聞く Spotlight

No.241

受け継ぐ思い、未来へつなぐ挑戦

藤田 勇夫 さん



市内に受け継がれる民俗芸能の伝承と振興に取り組んでいる北上市民俗芸能協会の藤田勇夫さん（下江釣子・78歳）は、理事長に就任して1年が経過しました。
令和6年9月に長く協会をけん引してきた前理事長が急逝し、理事長代行を経て翌年6月に理事長へ就任しました。「前理事長が大切にしていた民俗芸能を生かしたまちづくりへの思いを、絶やすわけにはいかない。その一心だった」と当時を振り返ります。
理事長として向き合う最大の課題は、担い手の育成です。「民俗芸能の原点は地域にある」と語る藤田さんは、地域に民俗芸能を披露する機会を

増やす取り組みを進めてきました。その結果、大きな舞台への出演が難しい団体でも地域で発表する機会が生まれ、活動を休止していた団体が再び舞台に立つきっかけにもなっています。
若い世代の担い手には、悩みを分かち合い、未来を語り合う場を設けています。団体の枠にとらわれずに交流する姿に、藤田さんは目を細めます。異なる民俗芸能の担い手が互いに引きあひながら支え合う、新しい伝承の形も生まれています。
御免町鬼剣舞の庭元でもある藤田さん。週に1度の練習会には欠かさず顔を出し、「儀式や舞・音を本場の形で残す。それが庭元の役目」と、舞の意味や作法を伝え続けてきました。一つの民俗芸能を守り続けてきた経験は、多彩な団体が集う協会全体を見渡す上でも生きているといいます。
藤田さんが思い描くのは、「民俗芸能が残るまち」ではなく、「民俗芸能が人を育てるまち」です。民俗芸能を通じて人がつながり、地域の輪が広がっていく。その先にある北上の民俗芸能の未来を見据えながら、藤田さんは今日も歩み続けます。

No.305

みんなの詩歌



管平降りてたてまち風涼し

菊池 柊翔

いつかの日卯の花曇り陽が覗く

高橋 陽真

窓の外また青い空夏が来た

後藤 うらら

綿の散る庭にはいずれ鼓草

米澤 穂乃佳

飯豊中学校三年

※掲載作品は日本現代詩歌文学館内に展示しています。

おらはの愛ぞる



申し込みフォーム



高橋 明咲 ちゃん
令和7年10月12日生まれ
(しゅうり)

パパママのところに元気に生まれてきてくれてありがとう。すくすく元気に育ってね♪



佐々木 優羽 くん
令和7年4月22日生まれ
(和賀町長沼)

チャームポイントは笑顔です☆



千田 溜音 ちゃん
令和7年7月30日生まれ
(しゅうり)

すくすくのびのび大きくなるのだよ！生まれてきてくれてありがとう♡

どんなクラス？

個性豊かで元気いっぱい（通称）
陽気で楽しい（真有、貴）
人それぞれ特技がある（陽向）
とにかくにぎやか（綾斗）
いろいろなタイプの人がいって面白い（風助）

担任 佐藤先生からのメッセージ

最高学年となり、多くの行事を経験してパワーアップ中の6年2組。仲間と協力し、目標に向かう姿も増えてきました。2学期もたくさん成長し、思い出を作ろう！

8月のクラス 南小学校 6年2組

